



発行所: 天台宗高龍山明王院普賢寺  
 発行人: 普賢寺 広報部  
 〒183-0004 東京都府中市紅葉丘2-26-4  
 電話 042-369-2278 / FAX : 042-336-2610  
 URL : <http://www.fugenji.com>  
 メール: [info@fugenji.com](mailto:info@fugenji.com)



## 新任職ご挨拶

此度 普賢寺第四十三世の法燈を継承し 任職を拜命することと相成りました。もとより浅学菲才、法燈を継承するには 未熟の身ではございますが 寺門の護持発展のため誠心誠意精進してまいる所存でございます。

私は、前任職の長男として生まれ、寺で育ち、多くの檀信徒の皆様にご愛がって頂きながら幼少期、青年期を過ごし、寺に生まれ、長男の大半は、宗門の大学に行き、在学中に修行をして、卒業後は大寺院や自分の寺で修行に励まれます。

その点、私自身は一般大学に通い、一般企業で働き、寺の世界から少し離れたところで人生を過ごし、まいました。その後、比叡山での修行や大正大学の聴講生として学び直しましたが、遠回りをした分、俗っぽくて亜流な僧侶であるとも言えます。

しかし、四十一世住職である祖父が通産省で働きながらも普賢寺に奉職し、晩年は沢山の方々に囲まれて、周りの方も祖父自身も幸せそうな光景だったことをおぼろげながら覚えております。その影響もあり、私自身が一般社会で働く経験を選択したのは、社会に出たほうが将来的に、皆様に更に寄り添える僧侶になることが出来ると思ったからでございます。

私の中では、僧侶とは、人を幸せにする存在だと思っておりますので、僧侶になることにはなんの抵抗もありませんでした。ただ、僧侶になるなら「よりよい僧侶」になりたいと思ひ、種々の経験を重ねさせていいただき、今もその理想像に向かって精進をしている最中でございます。

私は、この普賢寺を「親しみやすく、どのような方にもフレンドリーなお寺」にしていきたいと思っております。お墓参りのみならず、近くにいらしたらフラッと寄っていただいたり、何かあればお話しにいらしていただいたり、そんなお寺にしたいと思っております。俗な僧侶でございますので、高尚な教義を説法でできる身でございませぬ。普賢寺の「普賢」は、慈悲によって人を救う仏様とされております。このお寺が、慈悲



で溢れる場所になるように精進してまいります。若輩者ゆえに、多方面でご心配おかけすることになるかと存じますが、一層のご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

普賢寺四十三世住職

小野寛寛

## 前任職ご挨拶

昭和四十八年に比叡山行院を無事に満行しまして、それ以降父が亡くなる平成十一年まで副住職をさせていただきました。その間二十七年間。そして、父の死に伴い平成十一年より第四十二世普賢寺住職を拜命いたしました。二十一年間。約五十年の間、住職、副住職として無事に普賢寺に務めさせていただきました。これは偏に、皆様方のご指導ご鞭撻の賜物と心より御礼申し上げます。

振り返りますと、平成五年には念願の庫裡客殿の竣工を父と二人三脚で発願いたしました。普賢寺の開創の地である墨田区本所の土地の売却代と皆様方からの多分なるご浄財を合わせまして、平成七年には無事に落慶の祝典を迎える事ができました。平成十八年には本堂裏の永代供養墓の建立、平成二十年には隣地に駐車場も整備させていただきました。また、平成三十一年庫裡客殿の壁と塀の塗り直しをさせていただきました。

これらは偏に、皆様のご指導ご鞭撻のおかげと心より感謝申し上げます。これ以降、四十三世が普賢寺住職を継承いたしますが、私共々、より一層のご指導ご鞭撻を檀信徒の皆様にはよろしくお願い申し上げます。

普賢寺四十二世住職 小野茂明



## 新型コロナウイルスへの対応について

昨今の新型コロナウイルスの流行において、罹患された方々にはお悔やみ申し上げます。

普賢寺では、消毒や換気、マスク着用などを実施して、感染予防につとめてまいります。ご法事やご葬儀に関しては、檀信徒の皆様のお心を第一として、ご相談の上決めさせていただきますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

緊急事態宣言は解除されたものの、第二波、第三波のを見据えますと、まだまだ余談が許されない状態ではございますので、どうぞ御自愛の上お過ごしされてくださいませ。

疫病退散、当病平癒の祈願も承りますので、何なりとご連絡くださいませ。

## 開創五五〇年記念 香炉寄進者御芳名

三万円  
浅川さちこ様

一万円

小林晴人様  
宮尾瑛子様  
松本友子様

前回の御芳名表に右記檀信徒様のお名前が漏れておりました。  
大変申し訳ございませんでした。

## 意外な！ 仏教用語 油断

「油断大敵」という言葉を戒めの意味で使われることがあると思いますが、この言葉の「油」は比叡山の灯りを保つ油を指すという説があります。比叡山には一二〇〇年不滅の法燈があります。その法燈は代々の比叡山の僧侶が、仏教という灯りを絶やすことのないように、油を断つことなく注ぎ続けた結果一二〇〇年間、ずっと灯されているのです。比叡山延暦寺の住職に聞いたところによると、この油を足す当番という人は決めておらず、お堂にいる全員の僧侶が意識して、気付いた人が、油断せず油を足しているとのことなのです。誰も

が常に油断しないようにという戒めなのです。今なら、ネットで「比叡山」を検索すると法燈の動画が生中継され続けております。

この機会にどうぞご覧くださいませ。

この言葉の語源には諸説あるのですが、天台宗の僧侶であれば、この説がしっくり来るのでご紹介させていただきました。



## Info

### 1. 本堂前の鈴設置

昨年の550周年で頂戴致しました香炉のご寄付でございませうが、想定以上のご寄付をいただきましたため、本堂前に五色の鈴を設置させていただきました。

神社は鈴で、寺院は鰐口と思われる方もいらっしゃると思いますが、比叡山無動寺でも本堂前には鈴があり、神仏習合の時代はあまり区別されていなかったようです。

仏教における、鈴や鐘などの鳴り物の意味としましては大きく2つの意味があります。

1つは、キレイな音色を聞いて自分自身を清浄なものとする。

2つは、自分がお参りに来たことを神仏にお伝える。ということでございます。どうぞご来山の際には、香を立て、鈴を鳴らしてお参りをされていってください。

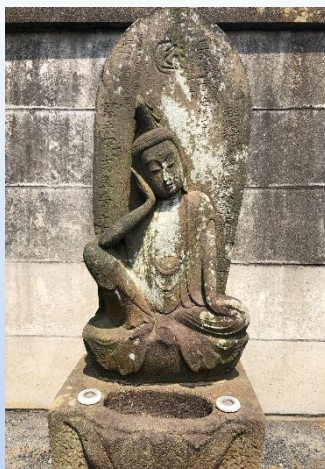


### 2. 日曜夜の寝前坐禅会オンライン

新型コロナの影響を受けて、心の平安のために坐禅会をしてほしいと友人から依頼されて、オンラインで坐禅会を開くことにいたしました。

毎週日曜日の21:30から日本語と英語で実施しております。ご興味おありの方は、メールやFacebookの普賢寺アカウントまでご連絡くださいませ。

### 3. 如意輪観音菩薩の石仏



当山檀信徒でいらっしゃる高橋家様の墓地内にお祀りされていましたが如意輪観音菩薩の石仏を、墓地移転につき、お譲り頂くことになりました。

宝永年間(1704-1711)までの石像で、もともとはしばらく地蔵で有名な南蔵院様の境内にあったようです。境内の無縁墓の横に安置させていただきます。

### 4. 寺族紹介

此の度、寺族が増えました。名前を小野常慈(じょうじ)と言います。ご来山の際に、お見かけの場合は是非、ご挨拶させて頂ければと存じます。

礼儀もままならぬ不慮者ではございますが、今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

